

忍川の自然に親しむ会ウォーキング「見沼通船掘と水風景」

6月16日(金)に忍川の自然に親しむ会では、「見沼通船掘と水風景」のウォーキングを行いました。スタート駅は、武蔵野線の東浦和駅。

9時15分に JR 行田駅に集合していつもの10人で出発しました。駅近くのグルメシティ(ダイエー)でお弁当を購入。駅から5分で散策コースに入りました。最初は見沼通船掘公園、立派な竹林の散歩道、初夏のまぶしい日差しを遮り、快適なウォーキングの始まりでした。



[見沼通船掘公園の竹林](#)

続いて行った「附島氷川女体社」、説明によると見沼通船掘公園は、かつて東京湾が大宮台地の辺りまであった頃の入江の所に作られた公園という。また、この辺は附島

という地名で、太古の海の名残であるという。かつての埼玉県の地形が説明されており、興味深かった。



「附島氷川女体社」の御由緒

見沼風船堀公園の北側から、見沼通船堀が始まる。見沼通船堀は、下の写真のように3本の川と4箇所の間で構成される。



見沼通船堀

上の図において、両サイドの川は、水源の川で中央の芝川(排水の川、悪水)に比べて、水位が3メートル高い。よってここを直接接続することはできないが、両サイドの川は、水運で重要な川であるためにお互いに通行したい。ここで考えられたのが、関を作って、船を順次芝川の水位に下げること、通行を可能としたのが、見沼通船堀である。この仕掛けは、パナマ運河が海より高い湖に船を上げて通行しているのと同じ仕掛けです。

船を通すのは、田に水を使わない秋の彼岸から春の彼岸までの期間で、大正時代の終わり頃まで使われていたようです。

この通船堀を管理していたのが、次の写真の鈴木家です。当時の繁栄が分かる立派なたたづまいです。



鈴木家

鈴木家住宅は、国指定史跡となっており、みだりに現状を変更したり、き損、衰亡等保存に影響を及ぼす行為は禁止されているという。土日には、家の内部は非公開ですが、付属物が公開されているということです。



芝川(排水路、悪水)

近くの水神社の境内で食事をとりました。



[大正時代の水神社](#)

通船掘の東録は工事中でした。



[通船堀の東縁](#)



[見沼通船堀の関\(復元工事中\)](#)

見沼通船掘の見学の後は見沼たんぼの散策に入りました。見沼たんぼは果てしなく続く家庭菜園のようで、小さな畑が限りなく続いていました。

木曾呂の富士塚

木曾呂の富士塚は、江戸時代だれでもが、登れるようにと作ったミニチュアの富士山ですが、1800年に富士講行っている人たちが作った高さ5.4メートル、直径20メートルの富士山です。下から見るととても高いように見えて、年寄りや下で待ち、若い3人のみ登りました。作ってから長い年月が経っていますので、植物が生い茂り富士山の頂上は下からは見ることはできませんでした。



[木曾呂の富士塚](#)

川口自然公園

見沼たんぼをさらに歩いて行くと、川口自然公園に着きました。川口自然公園では、可愛い「ルリヤナギ」の花が咲いていて、みんなで写真を撮りました。



ルリヤナギ

見沼自然の家

続いて見沼自然の家に、ここまで来ると皆さん非常に疲れてしまいました。さらに大崎公園、浦和くらしの博物館民芸館を見学する予定でしたが、コースを短縮、この先のバス停に進み、バスで浦和駅に戻りました。浦和駅では、いつものように喫茶店でお茶会。夕方帰宅の道に戻りました。